

新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

昨年は日本の介護食品の状況を海外にお伝えすると共に、海外における介護食品の展開状況を実際に拝見する機会に恵まれました。訪問先は台湾で、3月には APEC Health Working Group（健康ワーキンググループ）が主催する会議、続いて6月には「Food Taipei Mega Shows」の主要イベントである「台湾未来食品フォーラム」よりお招きをいただき、当協議会のユニバーサルデザインフード（UDF）の取組についてご紹介する機会を得ました。現地では、高齢化率の上昇を背景に介護食品への関心が非常に高く、その普及のスピード感に強い印象を受けました。日本が本分野の先進国であるという認識がありましたが、啓発手法や産官学連携の在り方など、多くの面で学ぶべき点があると痛感した次第です。

「台湾未来食品フォーラム」は台湾の財団法人食品工業発展研究所が主催しておりましたが、講演のほか、同研究所の皆様との意見交換や交流の時間にも恵まれました。その場では、台湾においても高齢化の進行が深刻な課題と捉えられており、各方面が強い危機感をもって対策に取り組んでいる様子を伺うことができました。

実は当協議会は2017年、同研究所を含む台湾の産官学関係者の訪問を受けています。その後、台湾ではUDFを参考にした介護食品規格「Eatender（イーテンダー）」を公表し、運用が開始されました。同規格の推進を担っているのがまさに同研究所であり、現在、イーテンダーは333社・1,110品目にまで拡大しているとの説明がありました。企業数で見ると当協議会の会員数の3倍以上にあたり、同研究所の事業推進力の高さがうかがえます。行政・産業界・医療界を横断して連携し、マーケティングまで一体で遂行している点も特徴的です。また、輸出にも積極的で、IDDSI（国際嚥下食標準化構想）への準拠を表示する製品も多いとのことでした。

UDFが現在に至るまで20年余りを要してきたことを思うと、台湾はわずか10年ほどでUDFを上回るスピードで普及を進めていることになります。同研究所のような立ち位置を取れる組織は日本には

存在しませんが、当協議会としても大いに学ぶ点があると感じています。

さて、本年度も当協議会ではユニバーサルデザインフードに関する多様な事業を進めております。UDF プレゼントキャンペーンについては、「UDFの日」「介護の日」に加え、新たに3月にも実施を計画しております。また、訪問看護ステーションを通じた在宅介護世帯への啓発活動も継続中です。会員企業の皆様に向けては、物性測定勉強会や有識者による講演会などを開催し、情報提供と研鑽の機会を設けております。

今後もこのような活動を通じ、ユニバーサルデザインフードをより多くのお客様に知っていただき、日常の食生活において安心してご利用いただけるよう、会員企業とともに一層努力してまいります。

最後になりましたが、関係各位におかれましては、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年が皆様にとって良い一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

2026年元旦

日本介護食品協議会
会長 森 佳光

【会議、催事等の予定】

1月16日（金） 第4回答容器包装研究会

【UDF 商品登録状況（2,308品目・11月末現在）】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とりみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	18	7	1	59	5	90
冷凍食品	338	264	792	55	0	0	1,449
常温食品	256	50	284	178	1	0	769
合 計	594	332	1,083	234	60	5	2,308

【会員の異動（11月）】

計97社（11月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階

TEL 03-5256-4804

FAX 03-5256-4805

<https://www.udf.jp/>